

## 【第 94 回対策本部会議】 8 月 11 日

健康福祉部長／5 日から 1 週間の感染者数は、30 人台、40 人台と続き、昨日は 52 人、本日は 73 人と大きく増加した。73 人は過去 2 番目に多い。

入院者数は 113 人、病床使用率は 30.0%。ホテル療養者数は 154 人、ホテル使用率は 31.1%。

本日未明、治療中の 20 代から 30 代の方の容体が急変し、お亡くなりになりました。この年齢区分での死亡は、県内で初めてのこと。心よりお悔やみ申し上げます。

この件を医療統括監から補足説明する。

医療統括監／初期症状は、咳や鼻水。4 日後に体調が悪化したが、受診しなかった。1 週間後に受診し、その診療の間に容体が急変。ほかの医療機関に移送したところ、肺炎所見が確認された。ECMO（エクモ）を導入したが、全身状態が悪化し、11 日未明にお亡くなりになりました。最初に受診した医療機関、治療した医療機関ともにウイルス検査を実施し、新型コロナウイルスの陽性を確認した。

若い人が中等症になる傾向はあったが、基礎疾患のない若い人が、重症化し死亡に至ることがあると示された事例になった。

健康福祉部長／発熱など症状がある場合は、出勤しないで受診してほしい。

最近の事例に、発熱症状があっても解熱剤を飲んで出勤を続け、症状が改善せず、やっと受診し陽性が判明する人がいる。このような働き方をすると、同僚や同僚の家庭にも感染を広げる。自分自身や家族、職場のためにも発熱などの症状がある場合は、出勤せずに受診してほしい。また、職場には、遠慮なく休める出勤体制を配慮していただくようお願いする。

### 人口 10 万人当たりの 1 週間の感染者数（7 月 1 日～8 月 10 日）

東京都は、200.06 人。福岡県は、全国 6 番目で 94.69 人と、大阪より多い。九州では、熊本県、佐賀県と続く。

感染経路不明の新規感染者数が、昨日は 28 人、本日は 35 人と増えている。新規感染者が連日 20 人以上を超えると、接触者の調査が難しくなる。各感染者の行動を聞き取り、その接触者 1 人 1 人に連絡を取り検査する。そこで陽性になると、また接触者 1 人 1 人に連絡し検査する。感染可能期間に出勤や登校・登園している場合は、100 人単位の検査になることもある。これ以上増えると、調査と検査が追いつかないのではと危惧している。

また、40 代、50 代の感染者数が増加している。昨日は、39 歳以下と 40 歳以上の割合が、それぞれ 5 割になった。家族以外の人と飲食や行動を共にし、感染するケースが増えている。

感染者数が増えているので、できるだけ活発な活動を控え、マスクを着用するようにしてほしい。

坂本副知事／基礎疾患のない若い人がお亡くなりになり、衝撃を受けた。  
県民のみなさんに伝える方法をどうすべきか。この会議で注意喚起しても、若い人は見ていないのだろう。関係団体をお願いする場合も、可能な限り隅々まで伝わるような形でお願いする。

南里副知事／感染力が非常に強く、活発な活動をする層で広がっているような印象を受ける。  
野田医療統括監に、このあたりの説明を聞きたい。

医療統括監／現在、デルタ株が主流になっている。当県でも9割がデルタ株。  
これは、従来株に比べてウイルス量が1000倍単位で多い。加えて、潜伏期間が少し短い。そのため、早い速度で感染するという特徴がある。1人1人が、より感染予防策を心がけないと、予期せぬ場面で感染してしまうだろう。

南里副知事／今の説明も含め情報を浸透させ、症状がある場合は無理をしないよう発信していく必要がある。

知事／この2日間、感染者数が非常に多くなり、会議を開催した。デルタ株はウイルス量も多く、感染力も驚異的に早い。

70代以上の感染者は7%と少ない。高齢者のワクチン2回接種率は88.5%、高齢者以外は14.6%。この統計を見ても、ワクチンの効果がわかる。ワクチン接種は希望接種だが、推奨するのは効果があるから。

ただ、病気などでワクチンを打てない人もいる。接種しないことに対して、誹謗中傷はあってはならない。しかし、多くの人が接種することで、大きな効果が得られることは申し上げておきたい。

最近、30代以下の感染が多かったが、徐々に40代、50代の現役世代が増えてきた。  
熱があっても、無理して出勤している人が多い。その間に、周囲にうつすことや、自らが悪化する場合もある。体調がすぐれないときに自重することは、周りの人のためでもある。  
中等症という言い方をするが、症状は我々の感覚からいくと重症のイメージ重症者というのは、極めて危険な状態で、ECMOをつけている状況だと思ってほしい。若い人は、症状が軽くて済むと思っている人が多いと聞く。しかし、実際にかかるにつらい。これを、周りの若い人たちに伝えてほしい。

毎日検温して、熱があるときは休む。会社のリーダーも、休むことを認めてあげてほしい。

本県のコロナ対策の究極の目的は、コロナ以外の救急患者や通常の診療体制に影響を及ぼさないこと、医療資源を確保すること。

現在の病床使用率は、30%。感染者数が最も多かった 75 人のときは、43%だった。前回より低いのは、若い感染者が多く、経過を見てよければ、ホテルに下り搬送するため、入院日数が少なく、使用率が抑えられている。

本県は「プロジェクト M」を機能させ、上り下りの搬送を随時している。病床も 13 床増やした。ただ、この方法を維持するには、お盆が大きな山場になる。デルタ株は、マスクを取った瞬間にリスクが上がる。今年のお盆は、食事のもてなしをせず、マスクをしながら故人を弔うといった努力をしてほしい。

現在、無症状で感染している人も多い。感染者からの聞き取りで、営業中にマスクを外していたという事例が多い。マスク着用にご留意いただき、皆さんと共に感染者を減らしていく努力をしていきたい。

ラムダ株という言葉聞くようになった。このような段階で、国が新しいウイルスの侵入を水際で止めることが大事。危機管理は、初動が肝心。

医療現場をはじめ、各現場の皆さんの取り組みに感謝する。

誹謗中傷するのではなく、エールを送り合うことがコロナ対策に必要なこと。

チーム佐賀・オール佐賀で、この危機を乗り越えたい。